

札幌国税局長賞

小樽市立長橋中学校 3年

池田 悠晟

未来社会の税の使い方とは

私たちの社会には、様々な場所や場面で国民が納めた税金が使われています。その納めた税金が使われています。その納めた税金の使い道にはどのようなものがあるでしょうか。私は、今年の夏休み期間中に大阪で開催されている「二〇二五年 日本国際博覧会」を家族と訪れた際に、日本の税金について今一度深く考えました。なぜなら、この大阪・関西万博の会場建築費や開催期間中の万博運営費などには、国や大阪府、市の税金が使われているからです。

こうした国や行政が主導する大規模イベントに税金が使われることには賛否両論ありますが、私はそれにより得られる未来社会への貢献にも注目すべきだと感じました。

例えば、万博会場では最新の環境技術や医療技術が紹介されており、これらは将来の私たちの生活をより良くする可能性を秘めています。税金がこうした最先端技術の発展の役に立っていることを知り、私はその意義を改めて理解しました。

また、万博のようなイベントには多くの人々が関わっており、建設業や観光業など幅広い分野に経済的な効果をもたらします。これは国や地域、そして行政の活性化にもつながり、結果的に社会全体の発展に寄与すると言えるでしょう。つまり、税金は、ただ消費されるものではなく、循環しながら未来をつくるための「投資」にもなっているのです。

これからの未来社会には、少子高齢化や環境問題など様々な問題が予想されています。そのため、私たち一人ひとりが税金の使われ方に関心を持ち、「どのような社会を目指すべきか」を考えていくことが大切です。例えば、医療や福祉に重点を置けば、安心して暮らせる社会が築かれ、環境対策に投資をすれば、持続可能な社会に近づけるで

しょう。

税金の使い道に対する理解と関心を深めることは、単にお金の流れを知ることではなく、自分たちの未来を自ら選び取ることに繋がります。

私は、大阪・関西万博訪れた経験から、税金が形を変えて社会を支えていることを実感しました。だからこそ、税金は「負担」ではなく「未来への投資」と考える視点が必要だと思います。

私も少しでも税金の意義を理解し、関心を持ち続けることで、よりよい未来社会の実現に貢献できるでしょう。